

### 性能評価シートの掲載内容について

弊社では、関連技術者に建築新技術情報の提供を図るため、申請者及び設計者にご承諾・ご協力を頂いて、弊社で性能評価を行った建築物の概要をまとめた性能評価シートを、一般財団法人日本建築センター発行の機関誌「ビルディングレター」\*に掲載しています。

性能評価シートは、国土交通大臣認定の添付資料の別添及び別表から、建築物、地盤、構造、耐震設計、地震応答解析等の概要を2～3枚にまとめたものです。(下記に示す事例をご参照ください。)

\* : 一般財団法人日本建築センターHP (<http://www.bcj.or.jp/>) をご参照ください。

#### 【性能評価シート事例】

設計 A 建築設計事務所 構造 B 構造設計事務所 監理 C 建築監理事務所		(仮称) XYZ計画 <b>超高層建築物</b> 本建物は地上30階、地下1階、軒高100mの主体構造は鉄筋コンクリート造で、主用途は共同住宅である。基準階平面は23.8m(3スパン)×31.5m(5スパン)の長方形で、アスペクト比はある。地上部の架構形式は純ラーメン架構で、揺れの低減のために、X方向は粘性制振壁、Y方向は制振間柱を採用している。																																																																																																																																		
評価番号 UHEC評価-構250XX 評価年月日 平成25年2月〇日 認定番号 HN25-70XX 認定年月日 平成25年5月〇日	<b>■ 基礎構造</b> 基礎の構造方法及び形式 杭基礎：場所打ちコンクリート杭 (P-β) 工法 杭径φ (mm) P1～P3：2000-3600 P11：2200-4000 軸径-杭底径径 先端：GL-25 m 杭長：16.85, 16.15 m 先端深さ・杭長 長期 (kN/m <sup>2</sup> ) 短期 (kN/m <sup>2</sup> ) 終局 (kN/m <sup>2</sup> ) 許容支持力 2271～2495 4542～4990 6813～7485 抗頭荷重度 2247 3850 6229 材 料 コンクリート：F-30C 鉄筋：SD490, SD390, SD345, SD295A	<b>■ 耐震設計</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">耐震性能目標</th> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">レベル1*</th> <th colspan="2">レベル2*</th> </tr> <tr> <th>地上階</th> <th>地下階</th> <th>地上階</th> <th>地下階</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">耐力</td> <td>耐力</td> <td>設計用地震力以内</td> <td>設計用地震力以内</td> <td>架構設計変形時層せん断力以内</td> <td>架構設計変形時層せん断力以内</td> </tr> <tr> <td>層間変形角</td> <td>1/200以内</td> <td>1/200以内</td> <td>1/100以内</td> <td>1/100以内</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎</td> <td>耐力</td> <td>設計用地震力以内</td> <td>設計用地震力以内</td> <td>架構設計変形時層せん断力以内</td> <td>架構設計変形時層せん断力以内</td> </tr> <tr> <td>支持力</td> <td>短期許容支持力以内</td> <td>短期許容支持力以内</td> <td>終局耐力以内</td> <td>終局耐力以内</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地震力負担率 %</td> <td>地上階</td> <td>ラーメン 100%</td> <td>ラーメン 100%</td> <td>ラーメン 100%</td> <td>ラーメン 100%</td> </tr> <tr> <td>地下階</td> <td>耐力壁 100%</td> <td>耐力壁 100%</td> <td>耐力壁 100%</td> <td>耐力壁 100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設計用せん断力係数</td> <td>X方向</td> <td>最大層間変位 (0.08)</td> <td>最大層間変位 (0.08)</td> <td>最大層間変位 (0.08)</td> <td>最大層間変位 (0.08)</td> </tr> <tr> <td>Y方向</td> <td>最大層間変位 (0.28)</td> <td>最大層間変位 (0.28)</td> <td>最大層間変位 (0.28)</td> <td>最大層間変位 (0.28)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地盤部分の水平剛度 K</td> <td></td> <td colspan="2">k=0.13</td> <td colspan="2">k=0.35</td> </tr> <tr> <td></td> <td>最大加速度 (cm/s<sup>2</sup>)</td> <td>最大速度 (cm/s)</td> <td>最大加速度 (cm/s<sup>2</sup>)</td> <td>最大速度 (cm/s)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">採用地震波</td> <td>告示波1 Hachinohe1968NS位相</td> <td>108.5</td> <td>11.8</td> <td>442.7</td> <td>52.7</td> </tr> <tr> <td>告示波2 IMA K00E 1990NS位相</td> <td>77.0</td> <td>11.8</td> <td>402.6</td> <td>53.4</td> </tr> <tr> <td>告示波3 Randa-0位相</td> <td>84.2</td> <td>9.3</td> <td>389.7</td> <td>45.3</td> </tr> <tr> <td>観測波1 IJL CENTRO 1940 NS</td> <td>255.5</td> <td>25.0</td> <td>510.0</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>観測波2 TAPT 1952 EB</td> <td>248.4</td> <td>25.0</td> <td>496.9</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>観測波3 HACHIMARE 1968 NS</td> <td>174.5</td> <td>25.0</td> <td>348.9</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>	耐震性能目標	項目	レベル1*		レベル2*		地上階	地下階	地上階	地下階	耐力	耐力	設計用地震力以内	設計用地震力以内	架構設計変形時層せん断力以内	架構設計変形時層せん断力以内	層間変形角	1/200以内	1/200以内	1/100以内	1/100以内	基礎	耐力	設計用地震力以内	設計用地震力以内	架構設計変形時層せん断力以内	架構設計変形時層せん断力以内	支持力	短期許容支持力以内	短期許容支持力以内	終局耐力以内	終局耐力以内	地震力負担率 %	地上階	ラーメン 100%	ラーメン 100%	ラーメン 100%	ラーメン 100%	地下階	耐力壁 100%	耐力壁 100%	耐力壁 100%	耐力壁 100%	設計用せん断力係数	X方向	最大層間変位 (0.08)	最大層間変位 (0.08)	最大層間変位 (0.08)	最大層間変位 (0.08)	Y方向	最大層間変位 (0.28)	最大層間変位 (0.28)	最大層間変位 (0.28)	最大層間変位 (0.28)	地盤部分の水平剛度 K		k=0.13		k=0.35			最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )	最大速度 (cm/s)	最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )	最大速度 (cm/s)	採用地震波	告示波1 Hachinohe1968NS位相	108.5	11.8	442.7	52.7	告示波2 IMA K00E 1990NS位相	77.0	11.8	402.6	53.4	告示波3 Randa-0位相	84.2	9.3	389.7	45.3	観測波1 IJL CENTRO 1940 NS	255.5	25.0	510.0	50.0	観測波2 TAPT 1952 EB	248.4	25.0	496.9	50.0	観測波3 HACHIMARE 1968 NS	174.5	25.0	348.9	50.0																																		
耐震性能目標	項目	レベル1*			レベル2*																																																																																																																															
		地上階	地下階	地上階	地下階																																																																																																																															
耐力	耐力	設計用地震力以内	設計用地震力以内	架構設計変形時層せん断力以内	架構設計変形時層せん断力以内																																																																																																																															
	層間変形角	1/200以内	1/200以内	1/100以内	1/100以内																																																																																																																															
基礎	耐力	設計用地震力以内	設計用地震力以内	架構設計変形時層せん断力以内	架構設計変形時層せん断力以内																																																																																																																															
	支持力	短期許容支持力以内	短期許容支持力以内	終局耐力以内	終局耐力以内																																																																																																																															
地震力負担率 %	地上階	ラーメン 100%	ラーメン 100%	ラーメン 100%	ラーメン 100%																																																																																																																															
	地下階	耐力壁 100%	耐力壁 100%	耐力壁 100%	耐力壁 100%																																																																																																																															
設計用せん断力係数	X方向	最大層間変位 (0.08)	最大層間変位 (0.08)	最大層間変位 (0.08)	最大層間変位 (0.08)																																																																																																																															
	Y方向	最大層間変位 (0.28)	最大層間変位 (0.28)	最大層間変位 (0.28)	最大層間変位 (0.28)																																																																																																																															
地盤部分の水平剛度 K		k=0.13		k=0.35																																																																																																																																
		最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )	最大速度 (cm/s)	最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )	最大速度 (cm/s)																																																																																																																															
採用地震波	告示波1 Hachinohe1968NS位相	108.5	11.8	442.7	52.7																																																																																																																															
	告示波2 IMA K00E 1990NS位相	77.0	11.8	402.6	53.4																																																																																																																															
	告示波3 Randa-0位相	84.2	9.3	389.7	45.3																																																																																																																															
	観測波1 IJL CENTRO 1940 NS	255.5	25.0	510.0	50.0																																																																																																																															
	観測波2 TAPT 1952 EB	248.4	25.0	496.9	50.0																																																																																																																															
観測波3 HACHIMARE 1968 NS	174.5	25.0	348.9	50.0																																																																																																																																
<b>■ 建築物概要</b> <table border="1"> <tr><td>建築場所</td><td>東京都港区虎ノ門一丁目A番B号</td></tr> <tr><td>用途</td><td>共同住宅 (一部店舗)</td></tr> <tr><td>敷地面積</td><td>2620.00 m<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>延べ面積</td><td>875.00m<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>延べ面積</td><td>19500.00 m<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>基準階面積</td><td>780.00 m<sup>2</sup></td></tr> <tr><td>地上</td><td>30階</td></tr> <tr><td>地下</td><td>1階</td></tr> <tr><td>塔屋</td><td>2階</td></tr> <tr><td>軒の高さ</td><td>102.00 m</td></tr> <tr><td>建築物の高さ</td><td>102.00 m</td></tr> <tr><td>最高部の高さ</td><td>115.00 m</td></tr> <tr><td>基準階階高</td><td>3.30 m</td></tr> <tr><td>1階階高</td><td>5.00 m</td></tr> </table>	建築場所	東京都港区虎ノ門一丁目A番B号	用途	共同住宅 (一部店舗)	敷地面積	2620.00 m <sup>2</sup>	延べ面積	875.00m <sup>2</sup>	延べ面積	19500.00 m <sup>2</sup>	基準階面積	780.00 m <sup>2</sup>	地上	30階	地下	1階	塔屋	2階	軒の高さ	102.00 m	建築物の高さ	102.00 m	最高部の高さ	115.00 m	基準階階高	3.30 m	1階階高	5.00 m	<b>■ 地盤</b> 設計用 G.L. T.P.+3.02 地層 盛土(細砂) 0.7～3.7 シルト 3.7～7.2 シルト 7.2～12.6 シルト 12.6～14.9 砂質シルト 14.9～17.4 砂質シルト 17.4～21.4 砂礫 21.4～22.6 細砂 22.6～23.9 砂礫 23.9～24.6 シルト 工学的基礎位置 有 液状化の有無と対策 有：液状化層に特に対策 地盤種別 第2種地盤	<b>■ 主体構造</b> <table border="1"> <tr> <th>階層</th> <th>構造形式</th> </tr> <tr> <td>地上階</td> <td>制振部付付きラーメン架構</td> </tr> <tr> <td>地下階</td> <td>鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造)</td> </tr> <tr> <td>制振壁</td> <td>地上階：粘性制振壁、制振間柱 地下階：耐震壁：鉄筋コンクリート造</td> </tr> <tr> <td>制振壁ブレース</td> <td>地上階：柱：1000～1025x1000～1200 基準階大梁：810x780～930x780 コリマ：Fc30～Fc70x/mm2 (Fc42～70) 2JIS規格品又は大臣認定品 鉄筋：SD295A (D10～D16) SD345 (D19～D25) SD390 (D29～D32, H03) SD490 (D35～D41) US590B (USD41) (大臣認定品：MSRB-0040) SD685 (H13～H16) (大臣認定品：MSRB-9004) SDP1275/1420, SDP101275/1420 (12.6, 15) SDP1275/1420, SDP101275/1420 (12.6, 15) 大臣認定品：MSRB-9009, MSRB-9003) 材 料 鉄骨：SS400, SM490A, SM400A, SN400B, BCR295, SKR400, SKR490, SCS400</td> </tr> <tr> <td>柱・はり</td> <td>柱：一般部：垂し配筋、定着板による機械式定着 (大臣認定品) 外端部：L形定着または定着板による機械式定着 (大臣認定品) 床形式 半Fe板+現場打ち鉄筋コンクリートスラブ 現場打ち鉄筋コンクリートスラブ</td> </tr> <tr> <td>非耐力壁</td> <td>外壁：ALC板 内壁：軽量鉄骨下地ボード貼りまたはALC板</td> </tr> <tr> <td>耐大震壁</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>構造上の特色</td> <td>X方向には風及び地震の揺れ低減を目的に粘性制振壁 (7～20階) を、Y方向には地震の揺れ低減のための制振間柱 (3～20階) を配置している。</td> </tr> </table>	階層	構造形式	地上階	制振部付付きラーメン架構	地下階	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造)	制振壁	地上階：粘性制振壁、制振間柱 地下階：耐震壁：鉄筋コンクリート造	制振壁ブレース	地上階：柱：1000～1025x1000～1200 基準階大梁：810x780～930x780 コリマ：Fc30～Fc70x/mm2 (Fc42～70) 2JIS規格品又は大臣認定品 鉄筋：SD295A (D10～D16) SD345 (D19～D25) SD390 (D29～D32, H03) SD490 (D35～D41) US590B (USD41) (大臣認定品：MSRB-0040) SD685 (H13～H16) (大臣認定品：MSRB-9004) SDP1275/1420, SDP101275/1420 (12.6, 15) SDP1275/1420, SDP101275/1420 (12.6, 15) 大臣認定品：MSRB-9009, MSRB-9003) 材 料 鉄骨：SS400, SM490A, SM400A, SN400B, BCR295, SKR400, SKR490, SCS400	柱・はり	柱：一般部：垂し配筋、定着板による機械式定着 (大臣認定品) 外端部：L形定着または定着板による機械式定着 (大臣認定品) 床形式 半Fe板+現場打ち鉄筋コンクリートスラブ 現場打ち鉄筋コンクリートスラブ	非耐力壁	外壁：ALC板 内壁：軽量鉄骨下地ボード貼りまたはALC板	耐大震壁	なし	構造上の特色	X方向には風及び地震の揺れ低減を目的に粘性制振壁 (7～20階) を、Y方向には地震の揺れ低減のための制振間柱 (3～20階) を配置している。																																																																																				
建築場所	東京都港区虎ノ門一丁目A番B号																																																																																																																																			
用途	共同住宅 (一部店舗)																																																																																																																																			
敷地面積	2620.00 m <sup>2</sup>																																																																																																																																			
延べ面積	875.00m <sup>2</sup>																																																																																																																																			
延べ面積	19500.00 m <sup>2</sup>																																																																																																																																			
基準階面積	780.00 m <sup>2</sup>																																																																																																																																			
地上	30階																																																																																																																																			
地下	1階																																																																																																																																			
塔屋	2階																																																																																																																																			
軒の高さ	102.00 m																																																																																																																																			
建築物の高さ	102.00 m																																																																																																																																			
最高部の高さ	115.00 m																																																																																																																																			
基準階階高	3.30 m																																																																																																																																			
1階階高	5.00 m																																																																																																																																			
階層	構造形式																																																																																																																																			
地上階	制振部付付きラーメン架構																																																																																																																																			
地下階	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造)																																																																																																																																			
制振壁	地上階：粘性制振壁、制振間柱 地下階：耐震壁：鉄筋コンクリート造																																																																																																																																			
制振壁ブレース	地上階：柱：1000～1025x1000～1200 基準階大梁：810x780～930x780 コリマ：Fc30～Fc70x/mm2 (Fc42～70) 2JIS規格品又は大臣認定品 鉄筋：SD295A (D10～D16) SD345 (D19～D25) SD390 (D29～D32, H03) SD490 (D35～D41) US590B (USD41) (大臣認定品：MSRB-0040) SD685 (H13～H16) (大臣認定品：MSRB-9004) SDP1275/1420, SDP101275/1420 (12.6, 15) SDP1275/1420, SDP101275/1420 (12.6, 15) 大臣認定品：MSRB-9009, MSRB-9003) 材 料 鉄骨：SS400, SM490A, SM400A, SN400B, BCR295, SKR400, SKR490, SCS400																																																																																																																																			
柱・はり	柱：一般部：垂し配筋、定着板による機械式定着 (大臣認定品) 外端部：L形定着または定着板による機械式定着 (大臣認定品) 床形式 半Fe板+現場打ち鉄筋コンクリートスラブ 現場打ち鉄筋コンクリートスラブ																																																																																																																																			
非耐力壁	外壁：ALC板 内壁：軽量鉄骨下地ボード貼りまたはALC板																																																																																																																																			
耐大震壁	なし																																																																																																																																			
構造上の特色	X方向には風及び地震の揺れ低減を目的に粘性制振壁 (7～20階) を、Y方向には地震の揺れ低減のための制振間柱 (3～20階) を配置している。																																																																																																																																			
	<b>■ 耐風設計</b> 設計風圧力 建築基準法施行令第87条及び告示1454号に基づく風圧力 地表面粗度区分：Vo=34m/s 設計用せん断力 告示1461号第三項による風荷重は、最大で設計地震力の74%である。	<b>■ 置換振動系</b> <table border="1"> <tr> <th>固有周期 (sec)</th> <th>方向</th> <th>T<sub>1</sub></th> <th>T<sub>2</sub></th> </tr> <tr> <td rowspan="2">固有周期</td> <td>X</td> <td>2.355</td> <td>0.65</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>2.111</td> <td>0.712</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">復元力特性</td> <td>BC部材</td> <td colspan="2">武田モデルTri-Linear (γ=0.4)</td> </tr> <tr> <td>粘性制振間柱</td> <td colspan="2">Normal Bi-Linear</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">減衰係数 (減衰定数)</td> <td>内部粘性減衰 (C) = (2η<sub>v</sub>/ω<sub>n</sub>) (K)</td> <td colspan="2">h<sub>1</sub> : 上部構造0.03 ω<sub>n</sub> : 一次固有円振動数 (K) : 剛性マトリックス (瞬間剛性比型)</td> </tr> </table>	固有周期 (sec)	方向	T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>	固有周期	X	2.355	0.65	Y	2.111	0.712	復元力特性	BC部材	武田モデルTri-Linear (γ=0.4)		粘性制振間柱	Normal Bi-Linear		減衰係数 (減衰定数)	内部粘性減衰 (C) = (2η <sub>v</sub> /ω <sub>n</sub> ) (K)	h <sub>1</sub> : 上部構造0.03 ω <sub>n</sub> : 一次固有円振動数 (K) : 剛性マトリックス (瞬間剛性比型)																																																																																																													
固有周期 (sec)	方向	T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>																																																																																																																																	
固有周期	X	2.355	0.65																																																																																																																																	
	Y	2.111	0.712																																																																																																																																	
復元力特性	BC部材	武田モデルTri-Linear (γ=0.4)																																																																																																																																		
	粘性制振間柱	Normal Bi-Linear																																																																																																																																		
減衰係数 (減衰定数)	内部粘性減衰 (C) = (2η <sub>v</sub> /ω <sub>n</sub> ) (K)	h <sub>1</sub> : 上部構造0.03 ω <sub>n</sub> : 一次固有円振動数 (K) : 剛性マトリックス (瞬間剛性比型)																																																																																																																																		
	<b>■ 応答結果</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>入力</th> <th>方向</th> <th>応答値</th> <th>階</th> <th>地震波</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">最大層間変形角</td> <td rowspan="2">1/41</td> <td>X</td> <td>1.260</td> <td>9</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>1.230</td> <td>7</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/42</td> <td>X</td> <td>1.140</td> <td>14</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>1.130</td> <td>7</td> <td>告示波1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最大層間変位 (m)</td> <td rowspan="2">1/41</td> <td>X</td> <td>0.012</td> <td>9</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.023</td> <td>14</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/42</td> <td>X</td> <td>0.025</td> <td>15</td> <td>告示波1</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.025</td> <td>15</td> <td>告示波1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最大層せん断力係数</td> <td rowspan="2">1/41</td> <td>X</td> <td>0.068</td> <td>1</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.074</td> <td>1</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/42</td> <td>X</td> <td>0.117</td> <td>1</td> <td>告示波1</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.125</td> <td>1</td> <td>告示波1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最大層塑性率</td> <td rowspan="2">1/41</td> <td>X</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/42</td> <td>X</td> <td>1.00</td> <td>14</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>1.22</td> <td>18</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最大部材塑性率</td> <td rowspan="2">1/41</td> <td>X</td> <td>1.12</td> <td>6</td> <td>観測波3</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>1.25</td> <td>22</td> <td>告示波1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/42</td> <td>X</td> <td>0.51</td> <td>3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.45</td> <td>3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">最大軸耐力比</td> <td rowspan="2">1/41</td> <td>X</td> <td>0.50</td> <td>2</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.42</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1/42</td> <td>X</td> <td>0.50</td> <td>2</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>0.42</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>振心の影響</td> <td colspan="5">塔屋の影響で最上階の偏心率30.14%、1階の偏心率30.100となるが、その階以外10.002～0.0035と小さいため、おのれの影響は小さいと判断している。</td> </tr> <tr> <td>上下動の影響</td> <td colspan="5">上下動地震波を作成し、上下方向の振動解析により得られた結果を上下動の影響として考慮している。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	入力	方向	応答値	階	地震波	最大層間変形角	1/41	X	1.260	9	観測波3	Y	1.230	7	観測波3	1/42	X	1.140	14	観測波3	Y	1.130	7	告示波1	最大層間変位 (m)	1/41	X	0.012	9	観測波3	Y	0.023	14	観測波3	1/42	X	0.025	15	告示波1	Y	0.025	15	告示波1	最大層せん断力係数	1/41	X	0.068	1	観測波3	Y	0.074	1	観測波3	1/42	X	0.117	1	告示波1	Y	0.125	1	告示波1	最大層塑性率	1/41	X	—	—	—	Y	—	—	—	1/42	X	1.00	14	—	Y	1.22	18	—	最大部材塑性率	1/41	X	1.12	6	観測波3	Y	1.25	22	告示波1	1/42	X	0.51	3	—	Y	0.45	3	—	最大軸耐力比	1/41	X	0.50	2	—	Y	0.42	5	—	1/42	X	0.50	2	—	Y	0.42	5	—	振心の影響	塔屋の影響で最上階の偏心率30.14%、1階の偏心率30.100となるが、その階以外10.002～0.0035と小さいため、おのれの影響は小さいと判断している。					上下動の影響	上下動地震波を作成し、上下方向の振動解析により得られた結果を上下動の影響として考慮している。			
項目	入力	方向	応答値	階	地震波																																																																																																																															
最大層間変形角	1/41	X	1.260	9	観測波3																																																																																																																															
		Y	1.230	7	観測波3																																																																																																																															
	1/42	X	1.140	14	観測波3																																																																																																																															
		Y	1.130	7	告示波1																																																																																																																															
最大層間変位 (m)	1/41	X	0.012	9	観測波3																																																																																																																															
		Y	0.023	14	観測波3																																																																																																																															
	1/42	X	0.025	15	告示波1																																																																																																																															
		Y	0.025	15	告示波1																																																																																																																															
最大層せん断力係数	1/41	X	0.068	1	観測波3																																																																																																																															
		Y	0.074	1	観測波3																																																																																																																															
	1/42	X	0.117	1	告示波1																																																																																																																															
		Y	0.125	1	告示波1																																																																																																																															
最大層塑性率	1/41	X	—	—	—																																																																																																																															
		Y	—	—	—																																																																																																																															
	1/42	X	1.00	14	—																																																																																																																															
		Y	1.22	18	—																																																																																																																															
最大部材塑性率	1/41	X	1.12	6	観測波3																																																																																																																															
		Y	1.25	22	告示波1																																																																																																																															
	1/42	X	0.51	3	—																																																																																																																															
		Y	0.45	3	—																																																																																																																															
最大軸耐力比	1/41	X	0.50	2	—																																																																																																																															
		Y	0.42	5	—																																																																																																																															
	1/42	X	0.50	2	—																																																																																																																															
		Y	0.42	5	—																																																																																																																															
振心の影響	塔屋の影響で最上階の偏心率30.14%、1階の偏心率30.100となるが、その階以外10.002～0.0035と小さいため、おのれの影響は小さいと判断している。																																																																																																																																			
上下動の影響	上下動地震波を作成し、上下方向の振動解析により得られた結果を上下動の影響として考慮している。																																																																																																																																			

